

# 持続可能なまちづくりを支える人々のネットワーク —岐阜岩村を事例として—

石田 大貴<sup>1</sup>・出村 嘉史<sup>2</sup>・高木 朗義<sup>3</sup>・倉内 文孝<sup>4</sup>

<sup>1</sup>学生会員 岐阜大学大学院 工学研究科社会基盤工学専攻 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)  
E-mail:q3121002@edu.gifu-u.ac.jp

<sup>2</sup>正会員 岐阜大学准教授 工学部社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)  
E-mail:demu@gifu-u.ac.jp

<sup>3</sup>正会員 岐阜大学教授 工学部社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)  
E-mail:a\_takagi@gifu-u.ac.jp

<sup>4</sup>正会員 岐阜大学准教授 工学部社会基盤工学科 (〒501-1193 岐阜市柳戸1-1)  
E-mail:kurauchi@gifu-u.ac.jp

本研究では、まちづくり活動を行う際、持続的に活動していくための人々のつながりの構造を明らかにすることを目的としている。一ヶ月間の参与観察及びまちづくり活動の中核にいる人物に対するヒアリングにより、社会ネットワーク分析の手法を用いてコミュニティ構造を可視化した。その結果、「消防団」と「商工会青年部」の2つの組織が、コミュニティ内構造において中核に位置していることが把握された。また、消防団は地域の防災組織として役割だけでなく、人々のネットワークを形成する役割を果たしていることを見出した。

**Key Words :** *sustainable community planning, neighborhood network*

## 1. はじめに

### (1)研究背景及び目的

持続的なまちづくりを行っていくためには、地域住民間のつながりの存在が重要であると考えられる。しかし現在、我が国ではこれまで社会を支えてきた地域の「絆」が失われつつある。

我が国では、1999年に「市町村の合併の特例に関する法律」が大幅に改正され、市町村合併が強力に推進された。合併の影響により、これまでであった市町村の区域が拡大され、従来のコミュニティが衰退されることが危惧された。そのような事情を考慮し、1999年、2004年に合併特例法改正および合併新法が制定され、住民の意見が反映させる仕組みとして、旧市町村では地域協議会が設置できるとされた。しかし、導入された制度の活用やコミュニティ対策がいまだ不十分であることが大きな課題となっている。以上のことから、地域の自治組織などの重要性が再認識される一方で、地縁的なつながりが弱い大都市圏では、価値観の多様化の進展やプライバシー意識の高まりなどから近所付き合いを好まない傾向が

強くなっている。また、地縁的なつながりが比較的強い地域の中でも、市町村合併の進展や人口減少、少子高齢化に伴い、地域の自治組織を維持することが難しい問題が生じてきているなど、これまでであった地域の「絆」を維持することが難しくなっている。

本研究では、持続的なまちづくりを行うための基盤として、まちづくり活動を行う地域住民間のつながりに焦点を当てる。そして、岐阜県恵那市岩村町のコミュニティを対象に、フィールドワーク及び社会ネットワーク分析によりコミュニティの状態を可視化することを通じて、持続的に活動していくための人々のつながりの構造を明らかにすることを目的とする。

### (2) 対象地域概要

対象地域である岐阜県恵那市岩村町は、岐阜県の東南部位置し、2004年に旧恵那市と恵那郡南部の1市4町1村が合併した。旧市町村には、地域協議会が設置され、旧市町村の共同体意識は保たれているような体制となっている。しかし、恵那市でも人口減少や少子高齢化に伴い、地域コミュニティを維持することが難しい地域が多

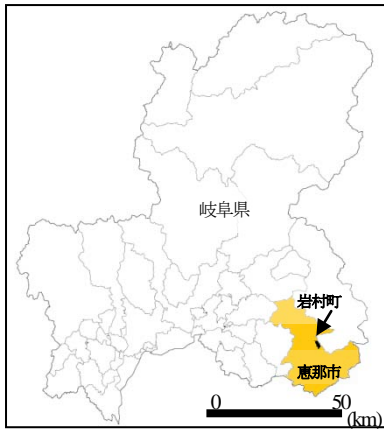


図-1 研究対象地域



写真-1 岩村城址



写真-2 城下町

参与観察は、2010年9月21日から10月23日の期間実施し、普段の人々の暮らしにおける人相互のつながりを読み解く視点を探った。参与観察中には、地域の生活や様々なイベントで地域住民の一員として活動を行い、その中で疑問や違和感など感じたことについて日々ノートに書き留めた。このノートの記述からキーワードを抽出した結果（図-2）、次のように見出した。

- ・イベントの多さ
- ・組織の多さ
- ・ネットワークの広さ

くみられるようになっている。

岩村町は、約800年余の長い歴史を秘めた町で三万石の城下町として今も城山に石塁を遺し、当時の面影をとどめているなど地域の歴史が遺されてきた。現在も城下町の町並みには、歴史の町並みや旧跡も保存され、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。一方、岩村町の富田地区では、農村景観日本一と呼ばれる農村景観が広がり、地域の特産物を創出している。これらの城下町や農村景観など地域資源が多いことから、その魅力を活かす目的を持ったコミュニティが数多く存在し、年間多数の地縁的な行事が行われている地域である。また、相互扶助を目的とした無尽が現在も存在していることから、岩村町では地域の「絆」が大切にされ、地域コミュニティが維持されてきたことが考えられる。

まず、第1に参与観察ノートより見出されたイベントの多さ関連では、9月21日のノートの記述によると、「一ヶ月間のスケジュールを聞き、予定の多さに驚いた。」と記述されていたり、9月22日の記述では、「地域住民の人たちはイベントが多く、忙しそう。」と記述している。参与観察を行った約1ヶ月間で約半月以上でイベントの準備や打ち合わせが行なわれていた。これらの記述から、イベントが多く、疲れてしまうことが考えられる。しかし、「多くのイベントに参加しているとどうも様子が違うことに気がついた。」と記述されていることから、準備から片付けまで自分たちで行い、片付けが終わればイベントの課題を話し合う人々の様子を見て、活動に対する意識の違いがうかがえる。また、イベントが行われ、様々な組織が参加することで、人々のネットワークの形成及び維持する機会を創出している。

＜事例1：秋祭り 10月2日＞

秋祭りは、重要無形文化財に県によって指定されている伝統的なお祭りで、昼の部では住民によって神輿渡御行列が行われ、夜の部では、獅子舞保存会による民族芸

## 2. 現地調査

### (1) 参与観察による現状把握

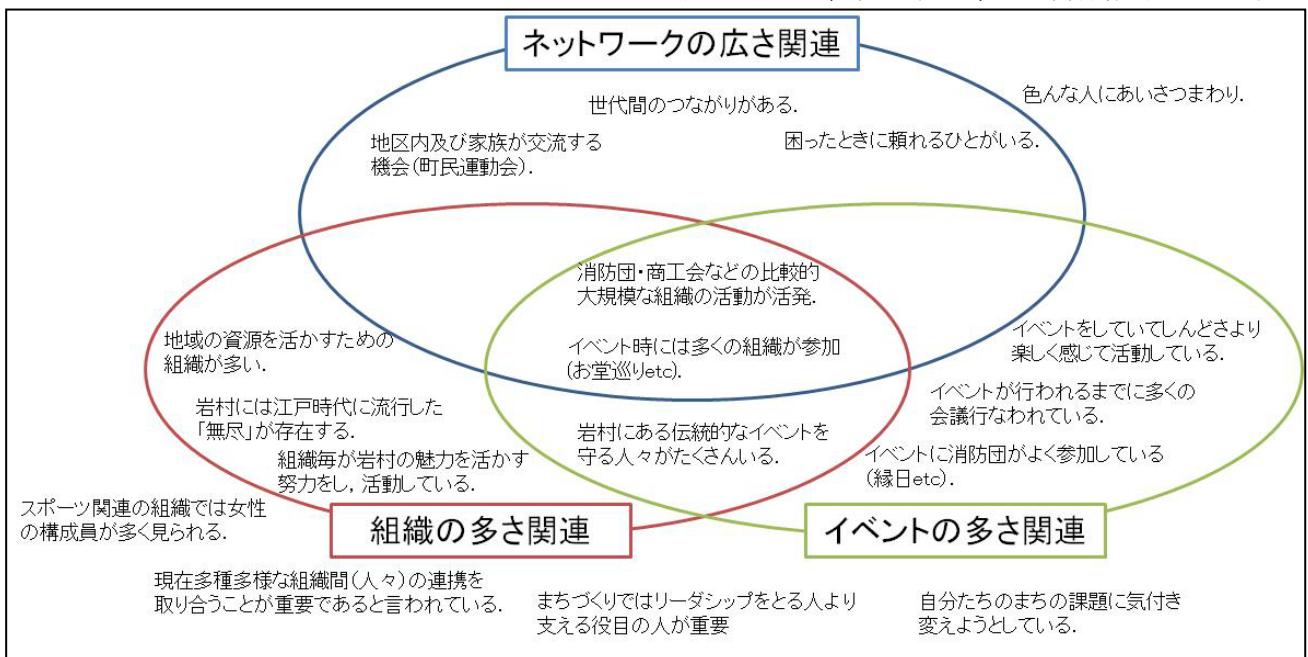


図-2 参与観察より得られたキーワードの抽出

能が行われる。

秋祭りの役割は以下の2点に要約できる。

- ①伝統的なお祭りに子どもが参加することで、岩村の持つ歴史的な面に触れる機会の創出。
- ②獅子舞保存会による民族芸能は、後継者不足などの問題があるが、民俗芸能を受け継ぐ過程には人々のつながりができる。

<事例2：町民運動会 10月17日>

町民運動会は、毎年岩村町内の自治区対抗で競われる運動会で、恵那市の他の地域では、参加する地区が少なく、町民運動会が行われなくなっている。しかし、岩村町では、38年間続けられている。

町民運動会の役割は次の3点に要約できる。

- ①普段関わりの無い地区同市が交流することができる。
- ②子どもが出るような競技が設けられていて良い思い出作りの場となっている。
- ③同じ地区内でバーベキューするようすが見られ、地区内の交流をすることができる。

第2に見出された組織の多さ関連では、9月23日の記述に「お堂巡りでは、富田を良くする会が主催となってNP0法人農村景観日本一を守る会、富田営農組合、知新の会などが参加し、岩村町の特産物を販売していた。」とあり、様々な組織が参加し、富田で栽培された米や野菜を販売し、富田の魅力を伝えていたことがわかる。「伝建地区に指定されている城下町の町並みをはじめ、富田地区の農村景観などの豊かな自然があるなど地域の魅力が多い地域で、その地域の魅力を活かすために組織が多くなっているのでは」とあり、岩村町内に存在する資源を活かすことを目的とした多種多様な組織が存在していることがわかる。また、「お堂巡り」では、その日は朝方嵐のような天気だったが、富田の野菜を買うために、大垣市や名古屋市などの遠方から来客する人もいた。この「お堂巡り」のように参加していた組織は、岩村の魅力をより知ってもらうという目的をもち、その目的のためにコミュニティの構成員同士が協力し合っていた。また、岩村では無尽と呼ばれるコミュニティが存在し、岩村にある飲食店内には、「無尽承ります」といった看板があるなど岩村で無尽が浸透していることが考えられる。また、現在岩村に住んでいない場合でも無尽の集まりのために岩村に帰郷するなど無尽によるつながりの重要であることがうかがえる。その他にも、岩村では、町内に住んでいる男性は「消防団・商工会」といった組織に参加することが一般的であり、これらの組織に参加することが人々のネットワークの形成に重要な役割を果たしていることがうかがえる。

第3に見出されたネットワークの広さ関連では、9月25日の記述に「このお祭りでは、若い人を中心とした商工

会青年部の人を中心に開催された。その準備や後片付けの際には、振興事務所の方や知新の会のメンバーの人が準備を手伝っていた。」とあり、イベントに参加している30歳代の人から60歳代ぐらいまでの人が同じ組織及びイベントで活動を行っていることが幅の広い人のつながりがあることがわかる。11月3日に行われた「歴史的まちなみウォーキング」では、若い人たちを中心に商工会など組織の枠に囚われず、普段まちづくりに参加していない同級生の人を参加させる人がいた。これらの同級生のつながりを支えている1つと考えられるのが無尽である。岩村で行われる無尽の種類として同級生による無尽が一般的で、岩村における人々ネットワークにおいて重要な役割を果たしていることが考えられる。

## (2) 参与観察結果より得られた仮説

本研究では、参与観察を2010年9月21日から10月23日の間実施し、普段の人々の暮らし、場所における人相互のつながりの根底にコミュニティ構造の視点を探った。その結果、現状のイベントと組織の多さ、人々のネットワークの広さに焦点を当て、岩村町における人々のつながりにおいて、「組織によるつながり」、「無尽によるつながり」、「イベントによるつながり」が重要であると考え、「岩村町内で年間多数行われるイベントが多数の組織を結ぶ接着剤のような役割を果たしている」という仮説を立てるに至った。しかし、この仮説を成り立たせるためには、組織やイベントに参加するまでに人々のネットワークの中核に位置するようなコミュニティが存在していると考察した。

## 3. コミュニティ構造の可視化

### (1) 社会ネットワーク分析について

本研究では、岩村におけるコミュニティ構造を可視化するために、社会ネットワーク分析を用いた。

社会ネットワーク分析とは、社会的行為者間の相互行為の研究に基づく構造主義的アプローチのことを表す。社会科学分野では、これまで人のグループ、コミュニティ、組織、社会の構造に注目されてきたことから、社会ネットワーク分析は社会科学で有用なツールとなっている。また、近年、我が国では「Pajek」、「UCINET」などのソフトウェアを用いて、計量的かつ視覚的にネットワークの分析が行われるようになってきていることから、「UCINET」を用いることとした。

### (2) ソシオメトリーによるネットワークの可視化

社会ネットワーク分析の起源は、モレノによって開発されたソシオメトリーという概念である。モレノはソシオメトリーについて「集団の進化と組織、および、その

中での個人の位置について調べる」<sup>1)</sup> 研究と定義されており、ソシオメトリーでは、集団と個人の集団内の位置すなわち本質的に構造として研究が行われていた。ソシオメトリーの特徴は、ソシオグラムを用いて社会グループ構造を線で図式的に表現にした可視化の技法である。可視化は、ネットワーク概念の直感的な理解を促すことからよく用いられる。また、ネットワークを可視化することで、大量のデータを分析し、そのデータ固有の構造的な特徴を把握することができる。社会ネットワークを可視化する基礎として、ソシオグラムが多用される。

ソシオグラムとは、社会グループの構造的属性を明らかにするための重要な分析道具であり、本研究では、岩村における個人間のネットワークがどのようなコミュニティによって結びついているのかを明らかにするためにソシオグラムを用いる。

### (3) コミュニティ構造可視化に用いるデータ

岩村町のまちづくり活動を行っているコミュニティとして、「岩邑知新の会」がある。このコミュニティでは、まちづくり活動を行っているコミュニティが他にもある中、「活動しやすい」、「自分たちが活動したいことをする」などの理由からつくられた。また、構成員は、30歳代から60歳代の31名が参加しているなど幅広い年齢層となっている(表-1)。活動内容としては、年間を通して行われる多数の行事での準備や後片付け、岩村町内にある食材(寒天豚や野菜)を活用した来客者への振舞いなどである。また、利用者が増加する「極楽駅」に、「この駅をより楽しい駅にするため」という思いから地蔵を寄付するなど、岩村町をより良くするために幅広い活動を行っている。

現在の岩村におけるまちづくりでは、岩村に存在する

多種多様なコミュニティが互いに連携し合うことで、岩村の地域を自らの手でつくるという方向性がある。そのために率先して活動する組織が「岩邑知新の会」であることが参与観察から把握された。これらを理由に「岩邑知新の会」に着目し、「岩邑知新の会」の構成員のデータを用いることとした。今回、コミュニティの可視化に用いるデータは、「岩邑知新の会」の構成員における所属コミュニティのデータを行列表示したものをを用いる。

役職	年齢	所属
代表	62	元消防団副団長, 元商工会青年部, 地域協議会副会長, 体育協会会長, 消防まとい会副会長
	61	恵南商工会副会長, 自治会副会長, 城址能実行委員長
副代表	53	元消防団, 元商工会青年部, 地域協議会副会長, ホットいわむら部会長, 町並み活性化委員会部会長
	48	元消防団副団長, 元商工会青年部, ホットいわむら部会長, 産業祭実行委員長
	55	元消防団副団長, 元商工会青年部, 体育協会副会長, スポーツネットいわむら代表
会計	63	元商工会青年部, 岩村商店会会長, 恵那市市議会議長, 恵那市市議会議員
	45	元消防団, 元商工会青年部, 地域協議員, ホットいわむら部会長
会員	51	元消防団副団長, 元商工会青年部, 体育協会副会長
	56	スポーツネットいわむら副代表
	60	ホットいわむら副会長, 飯羽間財産区会長
	60	元消防団副団長, 元商工会青年部, ホットいわむら会長
	57	元消防団, 元商工会青年部, 岩村観光協会会計
	54	元消防団, 元商工会青年部, 体育協会理事長
	43	元消防団, 元商工会青年部, 元恵南地区商工会青年部長
	42	元消防団, スポーツネットいわむら幹事
	35	恵那ほしぞら会代表
	43	元消防団
	41	元商工会青年部, 岩村小学校PTA会長
	34	現商工会青年部, 岩村城址ウォークラリー実行委員長
	35	現消防団ラッパ隊, 少年野球監督
	41	元商工会青年部
	41	元商工会青年部, 中学校PTA会長
	38	現消防団, 現商工会青年部
	49	名古屋市職員
	58	恵南商工会職員
	45	元消防団, 元商工会青年部, 交通安全協会会長
	44	元消防団, 元商工会青年部
49	体育協会副理事長	
56	元スポーツ課長, 現子育て支援課長	
特別会員	53	県議会議員
	74	恵那市職員

表-1 ヒアリング調査結果

役職	年齢	所属																
		消防団	商工会青年部	体育協会	地域協議会	ホットいわむら	恵南商工会	スポーツネットいわむら	岩村観光協会	岩村商店会	市職員	議会議員	少年野球	恵那ほしぞら会	飯羽間財産区	中学PTA	小学PTA	交通安全協会
代表	62	1	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	61	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
副代表	53	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	48	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会計	55	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	63	1	1	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0
会員	45	1	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	51	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	56	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	60	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
	60	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	57	1	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	54	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	43	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	42	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	35	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
	43	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	41	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	34	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	35	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
	41	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	41	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
	38	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	49	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	58	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	45	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
44	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
49	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
56	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
特別会員	53	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
	74	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0

表-2 ヒアリング調査結果(行列表示)



データの収集方法としては、「岩邑知新の会」の代表者の方に、構成員の所属コミュニティについてヒアリング調査を行った。表-1に「岩邑知新の会」の構成員における役職、年齢、所属していたもしくはしていたコミュニティを示す。

#### (4)コミュニティ構造可視化の結果と考察

岩邑知新の会の構成員が所属しているコミュニティをソシオグラム(図-3)に示す。赤丸で示されているのが構成員、青四角で示されているのが構成員の所属するコミュニティとなっている。

構成員は、岩邑知新の会以外に、市職員や議会議員、PTA、体育協会やスポーツネットいわむらといった体育関連、まちづくり活動を行っている「ホットいわむら」や「地域協議会」などの様々なコミュニティにも所属している(あるいは過去に所属していた)ことがわかる。

特徴として、図中の赤い点線で囲っている「ホットいわむら、地域協議会」(緑下線)といったまちづくり活動を行うコミュニティに参加している人は、「消防団」及び「商工会青年部」に所属していることがわかる。また、岩邑知新の会に所属する多くの構成員(赤丸)が、「商工会青年部」及び「消防団」といったコミュニティ(青四角)に集まっていることから、青い点線で囲っている部分では、構成員がこれらのコミュニティに所属している(あるいは過去に所属していた)場合が多いことがわかる。

UCINETによるコミュニティ構造の可視化を行った結

果、岩村におけるまちづくりについて計画や実行をしているのは「ホットいわむら、地域協議会」であるが、コミュニティ構造の可視化により「商工会青年部」と「消防団」が中核に位置していることが把握された。しかし、図-1で表されたネットワーク図は、地域で公的とされる組織について可視化したものであり、参与観察により確認された非公的な組織である無尽については不可視である。この非公的な組織を含めた可視化を行えば、より詳細なコミュニティ構造を把握することができるが、現段階で無尽についての詳細な情報は把握されていない。

#### 4. 持続的なまちづくりにおけるコミュニティの役割

商工会青年部は、商工業の改善及び発展、地域の活性化を図るため様々な活動を行っており、岩村のまちづくり活動において重要な役割を果たしていたことが考えられるが、商工会がまちづくりの中心に位置することは他の地域においても一般的である。本研究では、むしろ参与観察結果及びコミュニティ構造の可視化より把握できた岩村独自の人々のつながりとして、消防団によるつながりに着目する。消防団がまちづくりに役割について考察した。

##### (1)防災組織としての役割

この項では、岩村の消防団がこれまでどのような役割を果たし、どのように地域社会と関わってきたのかについて述べる。始めに消防署がなかった頃の消防団の活動

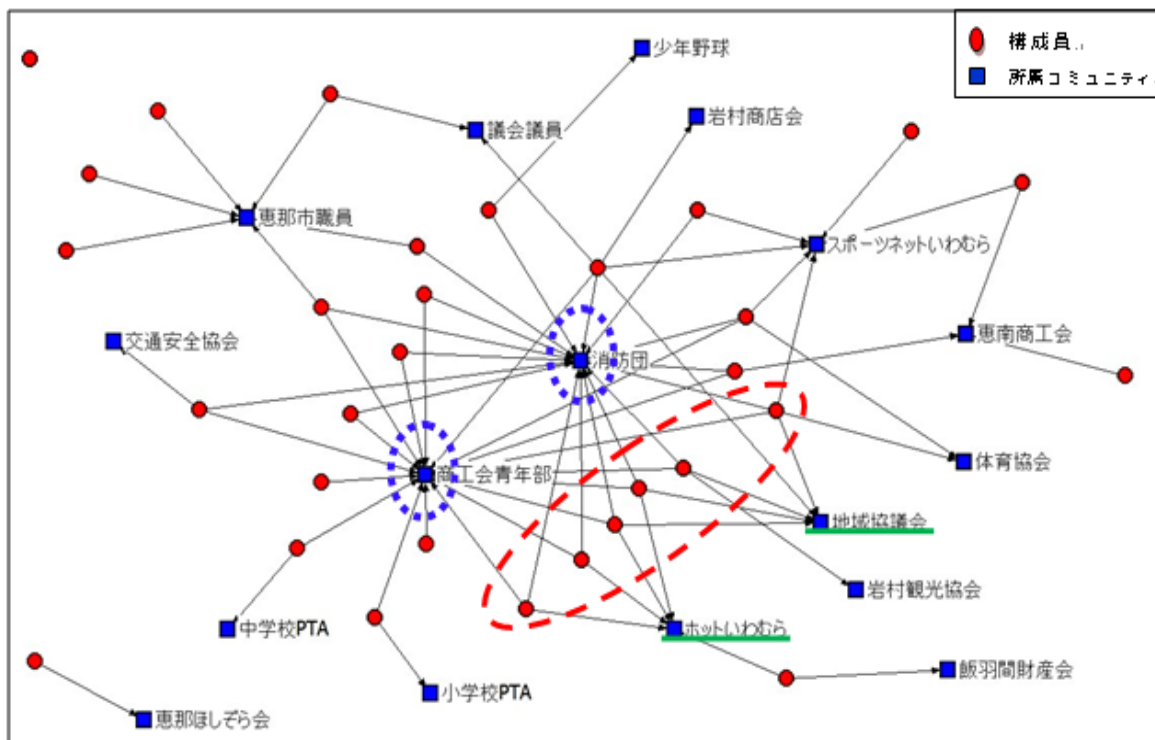


図-3 構成員における所属コミュニティのソシオグラム

について述べる。『広報いわむら縮刷版第三巻』<sup>2)</sup> 昭和51年3月20日「本町(役場前)で火災」では、当時の火災について以下のように記載されている。

二月一三日午後十時五十分頃、本町四丁目(役場前)〇〇宅から出火、～(中略)～現場は役場前の住宅密集地で、十時五十分近信号サイレン吹鳴、消防団員直ちに出勤して自動車ポンプ四台、小型動力ポンプ五台を各水利に配置し、団員二百四名が消火にあたりました。～(中略)～消防団員多勢がいち早く現場に駆け付けて、必死の消火活動をしたことにより、延焼を最小限に食い止めることができたものです。鎮火後も時々屋根裏などから火が出るので消火が続けられ、午前〇時三十分婦人会の焚出しで一息ついた消防団は、現場警戒の任に本部分団が当り朝を迎えました。<sup>2)</sup>

この記載より、当初消防署がない岩村では、消防団が主となって消防活動を行い、団員204人によって消火に当たっていることがわかる。また、消防団員らの迅速な消火活動によって、延焼を最小限に食い止めることができ、岩村にとって消防団は、地域を災害から守る重要な役割を担っていたことがわかる。

次に、消防署が設置された昭和54年以降の消防団の役割について述べる。『広報いわむら縮刷版第五巻』<sup>3)</sup> 平成元年10月10日「台風22号による大雨、大きな爪痕残す」では、当時の災害について以下のように記載されている。

九月一九日から二〇日にかけて台風二二号がもたらした集中豪雨が岩村町に大災害をもたらした。～(中略)～一九日午後四時五〇分に大雨洪水警報が発令されたため町職員は自宅待機し、また午後十一時からは消防団幹部が役場にて待機していたところ、雨量が急激に増加し、警戒水位となったため二十日午前〇時二〇分災害対策本部を設置する同時に消防団員の出勤を要請するなど警戒体制をとりました。その後床下浸水など次々被害情報が入り消防団による土のう積みなど応急処置を実施しました～(中略)～天爆山の堤が欠壊し付近の住民がとりのこされ消防団が避難誘導し、飯羽間川の流域住民も消防署・消防団が救出にあたる他、～(中略)～この様な大災害にもかかわらず人的被害が無かったことは、「不幸中の幸い」これも消防団をはじめ各位の対応がよかったものと思われます。<sup>3)</sup>

この記載より、岩村に消防署が設置されてからも、消防団の役割はかわらず災害時の災害対策や避難誘導を行っていることがわかる。また、「大災害にもかかわらず人



図-4 当時の火災の様子

的被害が無かったことは消防団の対応がよかった」と書かれており、消防署が設置されてからも、岩村において防災組織として重要な役割を担い、地域住民にもその活動が周知されていることがうかがえる。また、災害を経験した子供が当時のことについて書いた作文中には、災害時の救助活動や復興作業の活動を見て感じたこととして、「役場の人達、消防団の人達、町のことを考えて下さってうれしかったです。今度は私達も町を大切にしたいと思います。」<sup>4)</sup>と書かれており、消防団や役場の人の地域を守る姿が、子供達にも伝わっていることがわかる。

## (2) ネットワーク形成としての役割

岩村の消防団員(岩村分団)は、現在、約180名と恵那市の他の分団と比べると多くなっている。また、岩村の消防団は、イベントに参加することが多く、人々のネットワークができる機会が多いことが考えられる。『広報いわむら縮刷版第五巻』<sup>5)</sup> 昭和54年4月20日「消防団の使命の達成と明るい町づくりに一役を」では、消防団長新就任の際の話が以下のような記載がされている。

町と消防署と消防団が常に連携を保ちながら、消防団の使命である人命の安全と財産の保護に専念する事は勿論の事、二百名の団員が団結と奉仕の精神で規律の厳正と和を以って訓練に励み、明るいまちづくりと人間関係の連帯性にも一役生かせるような、消防団仲間づくりを柱に進めて行きたいと望んでおります。又消防団に対する町内の後援会(消防友の会)の皆さん、婦人会防火クラブの皆さんの暖かいご支援ご協力を感謝すると共に、前団長同様にご愛顧と後援を賜ります様お願い致しますして就任の挨拶にかえてさせていただきます。<sup>5)</sup>

この記載では、消防団の役割である人命の安全と財産の保護だけでなく、200名の団員が団結と奉仕の精

神を持ち、まちづくりと人間関係の連帯性にも活かせるような消防団仲間作りを柱に進めていくということが新団長より述べられている。また、この記載により消防団と消防友の会、婦人会防火クラブといった消防組織とのつながりがあることがわかる。これらより、仲間づくりが人間関係の連帯性すなわち人々のつながりを作ることが重要であることに気がつき、岩村町において、その機会を創出しているのが消防団という組織である。参与観察やヒアリングなどにより、現在岩村のまちづくりは、コミュニティ間の連携すなわち人々のつながりが重要であることが言われており、互いが連携を取り合う体制ができつつある。この記載がされてから現在に至っても、消防団長によって言われている人々のつながりの重要性が言われていることから、消防団では持続的に、ネットワークの形成という役割だけでなく、重要性についても受け継がれていると考察した。

## 5. おわりに

本研究では、持続的に活動していくための人々のつながりの構造を明らかにするために、一ヶ月間の参与観察及びまちづくり活動の中核にいる人物に対するヒアリングにより、社会ネットワーク分析の手法を用いてコミュニティ構造を可視化した。その結果、「消防団」と「商工会青年部」の2つの組織が、コミュニティ内構造にお

いて中核に位置していることがわかった。消防団は地域の防災組織として役割だけでなく、人々のネットワークを形成する役割を果たしていることを見出した。しかし、参与観察やヒアリングなどによって重要なつながりを果たしていることが把握されている無尽について、詳細な部分は現段階ではわかっていない。今後、無尽を含めた人々のつながりの構造を明らかにすることで、まちづくり活動を持続的に行っていく知見を得ることができると考える。

### 【謝辞】

本研究は、参与観察を進行する際、岩村町住民の方々・岩村町振興事務所の方々に多大なご協力をいただいた。ここに感謝の意を表す。

### 参考文献

- 1)リントン・フリーマン：社会ネットワーク分析の発展，NTT出版株式会社，2007年
- 2)岐阜県恵那郡岩村町役場：広報いわむら縮刷版第三巻，第一法規出版（株）東海支社，1989年，p326
- 3)岐阜県恵那郡岩村町役場：広報いわむら縮刷版第五巻，第一法規出版（株）東海支社，1996年，p190
- 4)岐阜県恵那郡岩村町役場：報いわむら縮刷版第五巻，第一法規出版（株）東海支社，1996年，p429
- 5)岐阜県恵那郡岩村町役場広報：いわむら縮刷版第四巻，第一法規出版（株）東海支社，1996年，p11

2011. 5.6 受付)

## Network of people supporting sustainable community

Hiroataka ISHIDA, Yoshifumi DEMURA and Akiyoshi TAKAGI and Fumitaka KURAUCHI

This study aims to the structure of neighborhood network for sustainable regeneration .With personal interview to the heat of the community planning activities and participant by anther for a month,the community structures were visualized using the technique of social network analysis . As the result,it is grasped that two organization,this is "volunteer fire cords "and "Youth of the Chamber of Commerce, " are situated in the middle part of welt society.Volunteer fire cords plays not only the role as the disaster organization ,but the role as the catalyst to form the neighborhood networks.